

高齢者及び年金受給者への支援等について / 上地義則

■5 番 上地義則議員 『高齢者及び年金受給者への支援等について』ということで、件名を謳^{うた}っています。

一つ『村長の施政方針』の中で、「高齢者が安心して生活できる環境」とあります。現在です。ね。子供手当や子育て世帯への支援、給食費の無償化など子育て世帯への支援は充実しつつありますが、これまで伊平屋村を支えてきた高齢者の方々に対して、何らかの補助・支援策などはあるのかを伺います。

■議長（金城信光） 答弁、住民課長。

■新垣晃弘住民課長 上地議員の質問にお答えします。現在、高齢者向けの支援につきましては、フィットネスいへやでのリハビリ支援や社会福祉協議会に委託している生活支援体制整備事業にて地域福祉コーディネーターを配置し、ミニデイサービス、高齢者重程度のみ、買い物、送迎支援等を行い、また地域ケア会議では医療福祉関係者を月 1 回招集し、支援が必要な世帯の情報共有を行っています。

また、福祉協議会やとらず園、村老人クラブ連合会等の団体への補助金や敬老会開催時に祝い金をお送りしています。今後は『第 5 次伊平屋村総合計画』、『第 5 期伊平屋村高齢者保健福祉計画』にそった住民サービスの展開を行っていきます。以上です。

■議長（金城信光） 上地議員。

■5 番 上地義則議員 課長、ありがとうございます。福祉に関しての行政サービスはいろいろやられているっていうのは耳にしています。その中でも、皆さんわかると思うんですが、年金受給者ですね。年金受給者は納められた方によって、だいぶ大きい開きがあります。

高い人で年間 280 万程度を貰う方もいれば、本当に低い、数万程度もいるということで、かなりの開きがあります。これに関しては、納められた額によって、おのあの個人差がでて

いるので、そのへんは理解できるんですが、例えば 80 歳以上の方々が「今まで子育てに精一杯で、農業しながら家族を支えるのに、自分の貯蓄を切り崩しながら、子供を育ててきた。」と高齢者の方々が言うのを耳にします。

これに関して数日前にも、とらず園の職員、社協（社会福祉協議会）の職員、住民課の職員と、役場の会議室で話し合いの場を設けさせていただきました。そこで聞いたのが、物価の高騰などで生活苦になっていると。その中でも、伊平屋村のとらず園は、次年度 4 月からですね、食事を 100 円上げざるを得ないという状況になっています。「心苦しい。」と言っていた職員もいましたが、上げざるを得ないと。ということは、単純に 1 日 3 食として自己負担が 9,000 円、食費代として 9,000 円上がるわけですね。

年金の低い高齢者の方で入居されている方が、水道光熱費、食事込みとして入居費として払われているのが、47,000 円程度というのを聞いています。食費を単純に 100 円上げたら、9,000 円を足すと 56,000 円。これを毎月払うと。これだけでは収まらず、これはあくまでも一部ですね。これに紙おむつ代とか、病院の先生が来たらかかる薬代とかも含めて、自己負担が多いということなんですけど。年金貰う方は 2 か月に 1 回ということで、6 万、7 万貰う人がいたとしても、もうこれで 5 万 6,000 円すぐに消えて、これにまたおこづかい、おやつ代とかも手から出るわけですね。

そういうことで、先ほども言いましたが、子供の手当に関しては、だいぶ充実しつつあるんですが、高齢者は年金を貰っていてもかなりきつい状況だと、職員の方々やとらず園に入っていない方々からも聞いてます。高齢者の方々が今の伊平屋をつくって、支えてきたのは事実ですね、そういった方々が「今後生活するうえで支払いや金銭面、家族への負担などの心配事が少しでも楽になればいいな」ということですね、何らかの支援・支給を検討してほしい。

このことについて、再度答弁をお願いしたいのですが、村長、副村長、どちらでもいいので答弁をお願いします。

■議長（金城信光） 答弁。副村長。

■金城時正副村長 上地議員の質問にお答えしたいと思います。確かに上地議員がおっしゃっているように、年金受給者ですね。戦後の沖縄県特有の状況の中で、おっしゃっているように「6万で保険料を引いて、5万あまりしか残らないよ。」というのは、よく耳にします。そういった年金を含めての低所得高齢者の方々への支援をできないかということなんですけれども。

今後、考えているのは、例えば75歳以上、後期高齢者の方ですね。伊平屋独自の施策として、敬老年金を考えています。これは、ある市町村で実際に行っていて、75歳以上89歳まで、あと90歳以上99歳まで、あと100歳以上と、3段階に分けて敬老年金ということで年額支給します。今後は村としても、こういったかたちで考えていければと思います。

あとは介護についても、介護手当ということで介護保険がありますので、介護保険の支出に関しても、今後こうして検討していきたいと思います。以上です。

■議長（金城信光） 上地議員。

■5番 上地義則議員 副村長、ありがとうございます。「村が独自で、75歳以上から敬老年金というかたちで考える」という内容を聞いたので、とてもうれしく思います。なぜかという、機能向上やサービスの向上で利用者が負担する料金。物価高騰によりサービスの利用料金が上がることは、もうまぬがれません。家族で負担を分配できる方々はいいと思うんですが、年金や貯蓄だけでは支払いができない利用者も多くいます。

所得や能力に応じた負担が原則だと考えます。人生100年時代、サポートがなくても尊厳が保持され、希望を持って暮らすことができる島。最後まで生まれ育った島で何の心配もな

く、安心して暮らせる体制に発展させていくことが急務だと考えているので、是非、よろしく
くお願いします。